

ご挨拶

日頃より、皆さん方からお支え、お励まし、ご協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。私はこの間、永田町から距離をおき、自由に使える時間もできましたので、21世紀の日本と日本人はアジアに溶け込んで生き抜くしかないという信念のもとづき、あらためてアジア各国を訪ね、国内では、これからのあるべき地域の姿を求め頑張っている方々の営みに触れ、学び、議論し、考えています。

安倍政権は、株価は大きく動揺し、アベノミクスもあまり遠くない時期に、エネルギー・電気料金や食料品の高騰で、生活者と中小企業を痛めつけ、結局資産バブルを作っただけで終わるでしょう。また、国際政治でも独りよがりの思い込みで強行した昨年末の特定秘密保護法案の強行採決や突然の靖国参拝など、隣国との関係も適切なものとする事ができないばかりではなく、同盟国アメリカからも「失望した (disappointed)」と言われる始末で、外交・安全保障政策で孤立化を深めています。

私たちの政権運営が基本的なところで拙い部分があったために、国民の皆様から信頼を失いました。反省し、教訓化して「出直し」の政治勢力を作らなければなりません。しかし、成熟社会入りした日本、国際化の中での日本の進路は、現役世代を励まし、支援し、アジアに視野を拡げ、アジアを舞台として躍動する、そして自らの生活する「その場」では地域包括ケアの仕組みを実体とするような共同・協働の地域社会の統治を作り上げなければならないと考えています。そのために、じっくり腰を据えて、まずは足下からしっかりと固めなおすためにも、地方議員を作り、ともに考え活動するという営みを通じて、自分たちの生活する地域を見直し、何がこの徳島にとって足りないのか、徳島には何が必要なのかを構想し、明日への希望としたい、と私流の行動を始めています。

今年も皆様方のご期待に添えるような活動を積極的に展開してまいりたいと思いますので、ご指導、ご協力くださいますようお願いいたします。

2014年3月吉日

仙谷由人



←毎日新聞 2013年9月12日付
「御厨貴の政界人物評論」道半ばのリアリズム
スマホやタブレットでお読みいただけます。
※QRコードを読み取るアプリが必要です。



仙ちゃんレポート

仙谷由人全国後援会機関紙

1059
希望を作る

2014年3月20日
vol.34

Sengoku Yoshito

とくしま 里山資本主義

photo Calendar

活動の軌跡



2013年

4月28日 「花の会」恒例のバザー。地元佐古、椎の宮神社のつつじの時期に合わせて開催。



5月 3日

仙谷由人出版記念パーティ（徳島市）「エネルギー・原子力大転換」の出版を祝い、徳島でパーティを開催。



5月13日

政策研究大学院大学 (GRIPS) で講演 GRIPSフォーラム「エネルギー大転換」～電力供給システムの持続可能性～



6月2日～4日

中国訪問（野中広務元自民党幹事長を団長とする超党派の国会議員や議員経験者による訪中団）



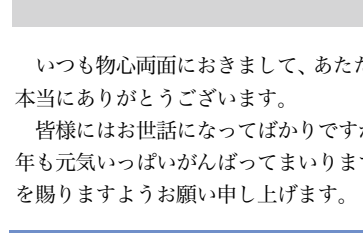
6月10日～14日

ネピドー・ヤンゴン視察 ティンセイン大統領他各省大臣と会談



6月25日

「ビジネスロードマンマーへの道」徳島の中小企業経営者を対象とした、朝食勉強会を開催。



8月 9日

長野県佐久総合病院佐久医療センター視察 2014年3月1日からオープンします。一度地域医療をご覧になればと思います。



9月 3日

福島県相馬市を視察 復興の状況を確認し、今後の課題を話し合いました。



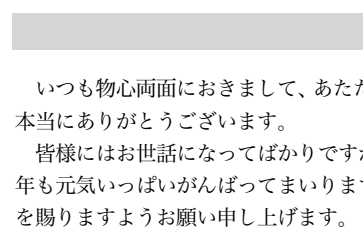
9月9日～14日

ミャンマー訪問 ヤンゴン州知事、ヤンゴン市長、ミャンマー商工会義疏と会談。



9月 3日

日韓・韓日協力委員会 50周年記念合同総会 日・韓両国の関係について相互理解の増進を図る。



2014年

1月11日

とくしま分権自治フォーラムで講演 「地方自治≒自治体の自己統治≒住民の自己統治」とは何か?～川上村を素材として～



1月11日

「花の会・新年会」福山哲郎議員をゲストに毎年恒例の新年会・誕生会を開催。

ご寄附のお願い

いつも物心両面におきまして、あたたかいご援助、ご協力をいただき、本当にありがとうございます。皆様にはお世話になってばかりですが、仙ちゃんとスタッフ一同、今年も元気いっぱいがんばってまいります。今後とも皆様の力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

●口座名 「仙谷由人全国後援会」

銀行口座 三菱東京UFJ銀行 銀座支店 普通預金 3572391

郵便振替 00170-4-187008

※2000年1月の政治資金規正法改正により、ご寄附をいただけるのは個人のみになりました。

仙谷由人 全国後援会

仙谷由人全国後援会：〒105-0004 東京都港区新橋 2-16-1 ニュー新橋ビル 402-1 tel.03(5521)1021 fax.03(5521)0150
仙谷由人徳島事務所：〒770-0942 徳島県徳島市昭和町 3-1-2 仙谷由人後援会 tel.088(626)1059 fax.088(655)9130
URL：http://y-sengoku.com E-mail：office@y-sengoku.com

※2014年1月より徳島事務所が上記に移転いたしました。



地域にある資本を生かして活性化を！

元内閣官房長官 仙谷由人

一昨年の総選挙から早くも1年が経過しました。徳島のみなさんをはじめとする様々な方々にお支え頂きながら活動しています。また昨年は各地の方にもお声掛け頂き現場を拝見しています。改めて私のなかで、これからの地域社会の在り方を問い直し、思考を鍛えなおす機会としていただいています。

村は屋根のない病院

昨年8月、長野県佐久市で建設中の佐久総合病院医療センターの建設現場に向かいました。東日本大震災の被災者支援を通じて懇意になり、その後折に触れて地域活性化のことなどをご教示頂いている、長野県川上村の藤原忠彦村長が同病院の運営委員長をされています。戦前から在宅中心の「農村医療」を展開し、地域医療のモデルとし

て有名な佐久病院が新たな先進医療センターを作っているということで、その建設途上を視察させて頂きました。

佐久総合病院の農村医療は同病院の創立期から活躍されていた若月俊一医師が母校であった東京大学を離れ、当時寒村だった長野で衛生生活、出張診療を始めたことなどから始まりました。医療だけでなく、お芝居やコーラスなどの活動も盛り込みながら、徐々にその思想と活動が地域に根付き、佐久を中心とした医療圏の中核病院、また全国の地域医療のモデルにまで発展したのでした。その佐久総合病院が建設中の先端医療センターは（平成26年3月1日オープン）、首都圏からも新幹線で1時間という立地も生かし、これまでの地域中核病院としての役割とともに首都圏やアジアまでも視野を広げ、第一級の医療を提供したいということで、その活躍にこれからも期待しています。



2013年8月9日 長野県佐久総合病院佐久医療センター視察



「2012数字で見る川上村」(川上村ホームページより)

真冬の最低気温はマイナス25度。降霜を見ないのは7月と8月だけという、聞くだけでも人間が居住するにも不自由な村です。

そんな村が、終戦直後の朝鮮戦争で駐留した米軍への食糧供給のために開墾されたことをきっかけに変貌します。米軍が好んで食した葉物野菜は夏季も冷温な川上村が栽培にもっとも適しているということで、不利な条件を逆手にとって夏出し野菜に着目した結果、いまや1農家平均売上二五〇〇万円（昨年は三〇〇〇万円）の村へと成長しました。

当時から村長として村の成長の先頭に立っていた藤原忠彦さんは、経済のみで人は幸せにはなれないと、生活の総合満足度の高い村を目指すようになり、「村は屋根のない病院」を標榜し、平成5年に保健・医療・福祉・介護を一体化するヘルシーパーク構想を樹立。住民の幸せのためにまい進するとともに、「地球に生存する全動物のなかで、子が親を看ることでできる唯一の存在が人間である」という哲学の下、在宅医療を推進しました。平成22年度の在宅看取り率は40%（昨年は48%）を超えており、多くの人が自宅で家族に見守られながら天寿を全うしています。

これまでの常識では不利とされていた状況から抜け出し、一つの理念のもとで地域を変えていく、その一例を川上村に見ています。

逆境をばねに

また、秋には復興が進む宮城の状況も見て回りました。東北大学が進められているパイオバンク構想は当初は県民遺伝情報集積による先端医療



2013年9月3日 亘理町イチゴハウス視察 齋藤邦男 亘理町長と

への貢献を主たる目的に進められておりましたが、それを敷衍し被災したみなさんの健康をフォローし精神面も含めてケアを行っているとのこと。そしてそのケアを担う方も被災者の方々が担うという、相互ケアのアプローチがとられていました。

亘理町では特産のイチゴのハウスの復興状況もみてまいりましたし、相馬市では復興住宅（相馬長屋）の建設状況にも立ち会いました。

震災から早くも3年になりますが、東北でも逆境をばねに努力を重ねる方々がいらっしゃいます。ちようど私が学生時代に活躍しておられ、戦後政治思想にとつて大きな存在であった、丸山眞男（一九一四～一九九六、東京大学法学部教授）につ

その佐久2次医療圏の端に、前述の藤原さんが長年村長を務められている川上村があります。千曲川の源流に位置するこの村は、大正期には島崎藤村がそのスケッチのなかで「ここから更に千曲川の upstream に當って、川上の八ヶ村というがある。その邊は信州の中でも最も不便な、白米は唯病人に頂かせるほどの、貧しい、荒れた山奥の一つであるといふ。」と記されたほどの極貧の村であったようです。

「FUDGE」

丸山はこのなかで自由と民主主義について論じています。自由人「である」と思い込んで自身の行動を点検することを怠る人は逆に自由でなく、比べて自由「である」ことに甘んじることなく自分の自由さを積極的に利用「し」ようとすると人が自由に恵まれている。

私なりにこれを解釈して少し飛躍するかもしれませんが、ここまでで書いた（例示した）それぞれの地域の例に似ている、そして将来の地域社会を考えるうえで重要な視点なのではないか、と考えています。

現状の中にある「なにか」

皆さんご案内の徳島県上勝町「いろいろ」の例に戻って考えてみましょう。いまでこそ「いろいろ」(葉っぱビジネス)によって産業が生まれ、町民の健康レベルも上がった上勝町ですが、以前は川上村と同じような寒村で、お年寄り若者に「こんなところにおらんと、都会へ働きにでなしたら」と口癖のように繰り返していたそうです。結果、町は益々廃れるばかりでした。そこへ赴任してきた一人の農協職員が編み出した「葉っぱビジネス」が成功、町に活気が戻りました。



つまりこういふことだと思えます。現状「である」ことに甘んじていないで、「現状の中にあるなにか」を「活用」することでは地域生活における満足を得られるのだ、ということです。「現状にあるなにか」というのは、川上村の自然条件であったり、上勝町の風土であったり、ということですが、そして、概してその「なにか」は案外住民には

外部といかにつながり新しい情報や視点を生かしながら地域の活力を生み出していく、その作業がより重要になってきます。また、徳島でも例外なくここから20年で急速に進む人口減少のなかで生き抜いていくためには、外から人を呼び込む方策が欠かせません。ただし、それはこれまでであったような県外企業の誘致ではなく、地域にある資源を生かし自力的に生きていける自己資本を大きくしていくことだと考えています。

それでも、私にも徳島のそれぞれの地域の「なにか」が見えているわけではありません。もちろん時間がかりますが、みなさんとともに活力を取り戻していく活動を続けていきたいと考えています。

